

令和7年8月18日
(2025年)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	健康福祉常任委員会
視察委員	委員長 益田 洋平 副委員長 五十川 有香 委員 中西 勇太、玉井美樹子、清水 亮佑、林 恭広、 澤田 直己、小北 一美
視察期間	令和7年7月30日(水)から7月31日(木)まで2日間
視察内容等	<p>1 視察先及び調査事項</p> <p>1日目 東京都国分寺市 重層的支援体制整備事業について</p> <p>2日目 埼玉県上尾市 子ども・子育て支援複合施設「AGECOCO」について</p> <p>2 視察調査の概要及び意見(国分寺市)</p> <p>(1) 国分寺市の主な事業概要</p> <p>ア 事業の経緯</p> <p>(ア) 2021年4月 重層的支援体制整備事業への移行準備を開始。</p> <p>(イ) 2023年4月 重層的支援体制整備事業を開始。</p> <p>イ 国分寺市地域福祉計画等との連携</p> <p>(ア) 関連施策のより一層の連携を推進する観点から、国分寺市重層的支援体制整備事業計画を包含し、第2次国分寺市地域福祉計画を策定。</p> <p>(イ) 国分寺市社会福祉協議会が策定し、地域福祉を推進することを目的とした地域福祉活動計画とも連携。</p> <p>ウ 事業における取組</p> <p>(ア) 健康部、福祉部、子ども家庭部、教育部の4部の部長職、課長職や係長職で構成された相談支援総合調整会議を設置し、相談支援業務の総合調整、体制整備、情報共有及び連携強化を行う。</p> <p>(イ) 社会福祉協議会に委託し、地域福祉コーディネーターを4名配置。個別支援及び地域支援を行う。</p> <p>(ウ) どこに相談してよいか分からない相談を受け止める場として、2024年4月から福祉の総合相談窓口「丸っとふくまど」を設置。</p>

また、空き家を活用した拠点でも相談を実施。

(エ) 相談支援包括化推進員（直営）を配置し、地域福祉コーディネーターへの専門的助言、後方支援や関係各課との連携・調整を行うとともに、支援会議を開催する。

(2) 主な質疑内容

担当者からの説明の後、委員から次の質問があった。

- ア 対応が困難な相談の有無
- イ 再相談や支援の成果等の総括
- ウ チャットボット等ICTの活用状況
- エ 本人の同意のない第三者からの相談対応
- オ 「丸っとふくまど」以外の相談窓口の有無
- カ 地域包括支援センターからの相談状況
- キ 子供に関する相談元となる主な機関

(3) 委員会としての所感

ア 2023年4月の重層的支援体制整備事業の開始までに移行準備事業を進め、総合調整会議等の庁内連携スキームを構築して、具体的な連携による支援を進めてこられたことに複雑化・複合化する市民の地域生活の課題に向き合ってきた姿勢が感じられた。

イ 重層的支援体制整備事業実施に当たり、福祉、まちづくり業務に長く従事してきた職員を相談支援包括化推進員として専任で配置していることは、事業を安定的に推進し、充実が図られる重要な点である。

ウ 相談総合窓口「丸っとふくまど」を明確にして、イベントやSNSを通じて周知されている。市民にとって何かあれば市に相談できるという安心感につながる。

(4) 各委員の所感

ア 既にあったボトムアップの組織（総合調整会議）がいかされ、社会福祉協議会への委託だけでなく市職員による連携・フォローアップが丁寧に行われていた。

また、実際に「丸っとふくまど」の相談窓口を拝見し、窓口には翻訳対応の透明字幕表示ディスプレイも設置されており、様々な悩みを抱えた市民の「どこに相談したらいいのか分からない。」という声を受け止める場として安心できるものとなっていることがうかがえた。

職員の意識醸成・組織体制等を含めて非常に参考になる部分が多いと感じた。

イ 福祉の仕事の経験や地域のまちづくりの仕事の経験がいかせる職員を配置するなど、縦割り行政に横串を刺すように市全体の取組として、市民の複雑化する困りごとを行政が受け止め、支援していく体制が整えられていると感じた。

また、透明字幕表示ディスプレイのほか、受付番号発券機の隣に「手話通訳を希望します」「筆談を希望します」といったカードを設置し、受付時に渡せるようにするなどの工夫がなされていた。

3 視察調査の概要及び意見(上尾市)

(1) 上尾市の主な事業概要

ア 複合施設の整備に至った背景

(ア) 保育所

近隣の2つの保育所の老朽化や増加する医療的ケア児への対応。

(イ) つくし学園

施設の老朽化や入所希望者の増加への対応、通園バスの送迎時間の短縮。

(ウ) 発達支援相談センター

切れ目のない発達支援を行うため、関係機関との連携を強化。

(エ) 上記に対応するため、4施設を統合し、複合施設とした。

イ AGECOCOの運営概要

(ア) 大谷西保育所・児童発達支援センターつくし学園・こども発達支援センターの3つの機能がある。

(イ) 交流保育、医療的ケア児の受け入れ、切れ目のない発達支援、地域インクルーシブの推進を狙いとしている。

(ウ) 大谷西保育所は定員90人。

つくし学園は、発達に不安や課題がある未就学児の療育と保育を行い、定員は70人。

(エ) 発達支援相談センターでは正規職員で社会福祉士を配置し、相談支援の中核を担っている。

(オ) 地域インクルーシブの推進として、地域の子育て中の親子などを対象にしたイベントを年3回開催している。

ウ その他

上記の説明のほか、施設内を見学した。

(2) 主な質疑内容

担当者からの説明の後、委員から次の質問があった。

ア 複合施設整備に当たっての費用

イ 就学後の療育相談の利用状況と他機関との連携状況

ウ 複合施設整備に係る保護者の不安等への対応や課題

エ 人口呼吸器等の医療的ケア児の受入れ状況

オ 交流保育の時間や工夫、効果

カ 保育所とつくし学園を利用する保護者の園児との関わり

(3) 委員会としての所感

ア 保育所と児童発達支援センターの老朽化に伴う複合施設の整備に当たり、市の中心地に整備されたことは利用者の利便性において最大限に考慮されたものであると感じた。

イ 市直営で施設運営を実施されており、子供たちの発達保障と尊厳と自由を尊重するために役割を果たそうとする上尾市の姿勢に感銘を受けた。

また、発達支援センターで相談支援の中核を担う社会福祉士を正規職員で配置している点に、相談支援を重視されていることがうかがえる。

ウ 職員が連携してリスクマネジメントを行いながら、子供同士が自然に関わり合える「交流保育」の実践に感心した。

(4) 各委員の所感

ア 市長の挨拶から、子育て政策に力を入れている上尾市の心意気を感じた。

また、大谷保育所とつくし園の交流保育やインクルーシブの推進（インクルーシブ遊具で一緒に遊ぶなど）はとても有意義な取組であり、ほかにも給食室による食育の取組や丁寧な人員配置についても重要だと感じた。

さらに、救急車等の緊急車両が駐車できる場所が医務室の前にあり、医務室から直接出入りできるといった工夫も見られ、現場の声を大切にされている証だと感じた。

イ 障がいの有無関係なく、絵本を読むなど園児と一緒に過ごす交流保育の様子に感銘を受けた。

また、重症心身障がい児の受入れや、医療的ケア、正規職員で配置されている社会福祉士が相談やコーディネート、巡回相談を行っている点について、本市でも検討すべきであると感じた。

AGE0（上尾）をAGE0（エイジゼロ）として、『0歳から輝く街』とうたっており、こども憲章や市長の動画メッセージからも、子供たちを大切にされている姿勢が伝わった。市が責任をもって子供の成長や療育環境を整えることの重要性を改めて学んだ。